



# 消防団だより

## 第5号

発行

富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地

電話 (0545) 51-0123

内線 (3333)

FAX (0545) 53-4633

### “自分たちの街は自分たちで守る”

## 激励のごとば

富士市長 鈴木清見



係者が一丸となって生命の安全を第一義とし、高度の消防技術の修得、予防査察の強化、また一層の消防施設の整備・充実が急務であると考えます。

どうか消防団員の皆様には、その任務の重大さを再認識され、市政の発展と市民生活の安全のため一層のご努力・ご精進を賜りますようお願いいたしますとともに、皆様とご家族のご健勝・ご多幸を祈念申し上げます。



消防長 村山 旻

## 阪神大震災に想う！

対策特別措置法という特殊な時限立法が施行されたことにより、静岡県全域は強化地域の指定を受け、以来膨大な国の財政措置によって、地震防災対策の強化が推進されているところでもあります。

これも、地震学者の多くが、東海地震のメカニズムから予知することは可能であるとの見解からの施策と考えられます。

しかし、東海地震説から十九年を迎えようとしているにもかかわらず、一向に前兆現象はキャッチされず、この間昭和五十八年には日本海中部地震、昭和五十九年長野県西部地震、平成五年釧路沖地震、続いて北海道南西沖地震、平成六年北海道東方沖



地震発生半日後の神戸市内

地震、三陸はるか沖地震、そしてこの度の阪神大震災となりました。いずれの地震災害も全く予知されること無く突発的な発生により大きな被害を生じました。

さて、私達消防関係者は、阪神大震災の惨状を見せつけられ、東海地震は予知されるものと信じていたものだろうか？

或る地震学者は、阪神大震災のコメントの中で「東海地震の予知は不可能である。」更に「地震予知はあくまで研究の段階である。」と論じておりました。

これらのことから、海洋性大地震であっても予知を過信することなく、突発的に発生するものと認識を新たにする必要があると思えます。

近代的都市神戸の被災を、そして災害対応を生きた教訓とし、これからの地震対策を充分検討するとともに、消防対応の迅速性、的確性に努めていく必要があると思えます。

富士市といえども、消防水利の整備、消防車両の更新など、消防施設の充実に鋭意努力しているところであり、更に複雑多様化する災害に対処するためには、消防関

係者が一丸となって生命の安全を第一義とし、高度の消防技術の修得、予防査察の強化、また一層の消防施設の整備・充実が急務であると考えます。

どうか消防団員の皆様には、その任務の重大さを再認識され、市政の発展と市民生活の安全のため一層のご努力・ご精進を賜りますようお願いいたしますとともに、皆様とご家族のご健勝・ご多幸を祈念申し上げます。

どうか消防団員の皆様には、日頃より郷土愛と奉仕の精神、そして旺盛なる責任感をもって、地域住民の生命・財産を火災等の災害から守るとともに、生活の安全確保のため献身的なご奉仕を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

本市の消防力は、関係各位のご尽力により、近代的な消防に整備されてまいりましたが、残念ながら火災の発生件数は依然として増加傾向にあるのも事実です。

火災は、市民の生命と財産を瞬間のうちに奪う非常に恐ろしいものです。消防の職務は、消防組織法第一

条にもあるように、「国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水火災又は地震等の災害を

防除し、及びこれらの災害に因る被害を軽減する。」ものとされており、災害の防除も重要なものとなっております。

富士市といえども、消防水利の整備、消防車両の更新など、消防施設の充実に鋭意努力しているところであり、更に複雑多様化する災害に対処するためには、消防関

# 楽しかったじびきあみ

第六分団 家族 秋山洋すけ

ぼくはじびきあみは二回目です。じびきあみに行く時、(はやくじびきあみをやる所について、魚をたくさん取りたいな。)と思いましたが。桃里海岸には早めにつき、あみをひくにはまだ時間がありました。やる時になったので、ぼくは先頭の方へ行きました。ぼくはいっしょけんめいひっぱりました。でも海のお水でちょっと手がしみました。岸にあがってきたあみの中を見ると、たこや、魚や、かに入っていました。ぼくはかにも



# 夜警を経験して

第二十四分団 団員 細川英二

早いもので今年もあと二週間余りとなりました。たかあしがにです。たかあしがにっていても小さいので。一回目のあみひきが終わり、二回目になりました。ぼくはまた先頭の方へいきました。こんどは一回目より少なかったです。でも一回目よりかまどかひが入っていました。ぼくは、おわってのしかつたなあ、来年も来たいなあと思いましたが。

私は、今回二度目の夜警となりますが、幸運にもそのどちらにもあつた事があります。しかし、記念すべき第一日目の当番に幸運にも当たり、おまけにわが班は他の班よりも当番が一回多く当たる事となりました。昨年、初めて夜警に出て、天間地区をポンプ車で巡回した時、「これ

# 指導員になって

第七分団 班長 神尾千敬

平成五年度に第二方面隊のポンプ車操法の指導員の欠員が生じ、私達七分団から、是非指導員を選出してほしいと話しがあり、分団で話し合った結果、私がポンプ車操法の指導員に推せんされてしまいました。色々悩み、家族と話し合い、家族も協力してくれると云う合意を得たので自分自身「よし」やってみようと思つたのは、小型ポンプ操法に四回、ポンプ車操法に二回それぞれ出場し、支部大会、県大会に四番員と

して参加しました。その時、富士市消防団はまだまだ県には通用しないと身にしみて感じたからです。私も年令的に選手としてはもう無理ではないかと思ひ、それならば私の経験した大会独特の緊張感を生かしながら、これからの選手の指導にあたり、支部、県、全国に富士市消防団ここにありとアピール出来るよう先輩指導員とともに頑張っていく決意であります。

# 入団して一年半

第九分団 団員 山下修



私が消防団に入団するきっかけとなったのは、同じ神谷町内に住む消防団員で親友の一言からです。彼が「神谷町は消防団員の数が少ないんだよね。」と嘆いていたことから話しが進み、団員の活動内容等を聞き、ふと二年前のある講演会のこと思い出しました。それは「良い企業人になるより、良い社会人になれ。」「地域の行事などに参加して他からの情報を得る。」と云うことでした。私はこの須津地区に三十年住んでいます。私にも何かできることがあれば、何か得ることがあればと考へ、入団を決意しました。入団し、先輩方が、消火訓練や消防団員の心得など色々分かりやす

く教えてくれます。まだまだ訓練し学ぶことが多くありますが、一日も早く先輩方の様に地域のために貢献できる消防団員になりたいと思ひます。最後に、私は入団する前までは火災などというのは、年間十数件程度だろうと思つていました。ところが入団して消防団関係の記事を注意して見る様になり、その数の多さに驚くばかりです。富士市における平成六年上半年期の火災発生八十二件、死者二人、負傷者十人。改めて火災というものは、ちょっとした不注意などで起きる事だと認識させられました。

俺達と同じだなあ。」と感じた人も何人かあると思います。又、こうして年々、一人前の団員に育って行くことだと感じました。将来、消防団員であることが良かったと胸を張って、家族や町内の皆さん、友達に話しが出来ることを楽しみに頑張ります。

# 愛と青春の 二十一分団 消防まつり

第二十一分団 家族  
松原まゆみ

「今年は桃太郎だぞ。」常会から帰宅した夫の第一声である。去年は、孫悟空だった。おとしは、金太郎。その前は、かぐや姫だった。何の事かと申しますと、これが二十一分団恒例、消防まつり「昔話シリーズ」の幕明けなのであります。確かに、最初は、分団として消防まつりに参加する為の、単なる企画であり、なんとかそれなりにやれば良い、という程度のものであったのだが、年を重ねる毎に、消防まつりと言えば、昔話のヒーローを登場させる事が常となり、それと同時に、そのヒーローになりきる事へのアイデアと技術も向上しているのである。そして、それが二十一分団の、こだわりでもある。



さて、めでたく、本年度登場の「桃太郎」のキャストも決まり、衣装や小道具の作成と打ち合わせの為に、夫達は当日まで忙しい日々を過ごすこととなった。

一方、その妻達は、バザーの出し物の相談に集まり、あまりお金を掛けない、尚かつ、来場のお客様に喜んで買って頂ける物を、と、工夫する。しかし、あくまでもボランティア活動であり、各家庭、共働きの家あり、小さい子供のいる家あり、それぞれ、なかなか集まりにくい事情はあるものの、それなりに、できる限りの協力で、今年も、二十一分団の「愛と青春の消防まつり」は、本番の日を迎えた。

あいにくの雨の中、主役の桃太郎さんは、化粧のりの良いピカピカの顔で、数少ないお客様に愛想をふりまき、青鬼さん、赤鬼さんは、雨に流れた絵の具で、素顔まで青く、赤く染め、犬は喜び庭掛け回り…。そんな夫達の姿を、大笑いで腫れながらも、やはり、尊敬と感謝も忘れない、妻達なのであります。めでたし、めでたし。

# お父さんが消防団に入って

第十七分団 団員 坂口三生  
家族 坂口大輔

私の長男に「お父さんが消防団に入っていてどう？」と聞くと、こんな作文を書いてくれたので紹介します。

『お父さんが、しょうぼうへ行くのと、好きなテレビは、見れるけど家の中がなんか、さびしい。お父さんは、いつものように、しょうぼうの練習でいそがしいのだけれど、お父さんは、いつも練習を、いやがらないで、はりきって家を出る。とくに、消防の大会のときは、ものすごく気合が入っていた。』

でも、消防のない日は仕事がおそくなったりして、お父さんと、ご飯を食べることは、あんまりありません。だから僕は、もう少し練習をへらせてくれれば、ありがたいのにとたまに思います。

けど、お父さんが、「楽しい」と思って、消防へ行くのならこのままがいいと思います。おとうさんは、消防の家族旅行へ行くかと、聞いてくるけどあまり行く気がしません。それは、ぼくと同じ年の子がいな

いからです。お父さんに悪いと思ってもどうしても、行きたくないという気持ちが強くなります。

ぼくは、会社へ行くお父さんより、消防へ行くお父さんのすがたが一番好きなので、消防を続けてほしいです。第6学年 坂口大輔 いかがでしょうか。

会社よりも、消防というのが？ですが、子の目には、そう映るんですよ。

この子達、家族、地域の生命・財産を守る為又、将来この子達に、消防団が何故必要なのか理解してもらうためにも、今後も訓練や広報活動等にはげみ、消防団員としての自覚をもって、消防活動に取り組みたいです。

## 平成六年度全国統一防火標語 安心の暮らしの中心火の用心

# 優勝への道

第一分団 家族 矢崎理恵子

主人の消防活動に協力して早いもので十三年目を迎えようとしています。

また、このたびの大会のポンプ車操法の部においては、優勝という名誉ある賞を頂き、本人はもとより家族一同喜びで一杯です。

これも、ひとえに団員の方々の協力があればこそで、皆さんの努力の賜だと思えます。この賞を頂くまでには、さまざま

てきたに違いないと思います。そのおかげに、家族への八ッ当たりも少なくはなかったのですが、主人の為、第一分団の為に、いつも笑顔をやさず(?)私も、頑張っ参りました。

そのかいあってか、今回の栄光を勝ちとったのだと思います。

第一分団の皆様、本当におめでとうございました。どうぞ、この名誉ある賞に恥じないような分団作りをしていってほしいと思います。

『第一分団に、栄光の光をいつまでも。』

な葛藤の日々があり、ましてや家業が酒屋という本業がありながらの大会出場でしたので、五回のうち二、三回は、いい顔で送り出してやる事が出来ませんでした。これは、私の妻としての思いやりや優しさが十分でなかったかと反省しております。

『男は外に出たら七人の敵がいる。』といいますが、まさに家の主人もそれと同じで、外では本当に大変な神経を使いながら、皆の指導に当たっ

# 消防団に入団して

第七分団 団員 米山英志

入団するきっかけは、若い人材を求めていると聞いたことと、仕事で消防用設備の施工、点検などを行っているので、少しでも消防活動に役に立つのではないのかと思い入団しました。消防団は、火災がなければ仕事がないと思っていましたが、実際入団してみると訓練や教育、その他地域活動への参加など、思ったよりなかったことがあり、なぜこんな事までもやらなければならないのかと疑問をいただきました。そんな疑問

の中、火災現場へ出勤したり、消防まつり、出初式に参加して、日ごろの訓練の大切さや多くの人のふれあいなどを学びました。又、分からない事があると分団の先輩方が、一つ一つ丁寧に教えてくれるので、自分自身もだいたい分かるようになってきました。まだ入団して一年半ぐらいですが、これからは積極的に地域のため頑張りたいと思います。

# 消防団生活を振り返って

第十分団 団員 渡辺光章

私が消防団に入った動機は、丁度私の長女が生まれる頃、現分団長が度々消防団への入団のさそいに来てくれたことと、私に父親になるという一つの区切りの様な気持ちを感じて入団した記憶があります。私の消防団活動は、子供の成長と共に経過した十五年です。消防団活動の一年間の行事は、現在と入団当初とそれほど変わっていない様ですが、若い時は若いりの活動生活があり、規律訓練で県大会

に参加した事、ポンプ車操法では今年こそはと思い、皆で早朝や夜頑張った訓練した事などが思い出され、大会が終わった後は解放感もありますが少し日が経つと何となくさみしい様な気がしたものです。最近では、若い人の行動範囲も広がり、消防団への入団が少なくなってきたといわれます。これからは、若い人にも魅力ある活動のあり方を団員一同考えて行動していきたいと思っています。

## 激暑の夏

### 富士山頂に 第二十五分団旗舞う

青柳唯一

第二十五分団 班長



この春、第二十五分団四代目分団長就任の訓辞で「富士山頂で分団旗を振りたい」と言った。第二十五分団の、「和をもって責務を果たす」精神を理解し、お祭り好きの団員は、即、決定実行した。

日頃の、消防早朝訓練の成果があり、八月六日午前三時に家族も加えて総勢十六名分団詰所に集合、一路富士山頂を目指す。

午前五時、八十二歳で七度目の登山経験を持つ片平班長のお父さんを先頭に五班に別れ自己のペースで登山を開始した。

各班に無線機を備え、最後尾から分団長が各班を見守り歩き始めた。

近年にない快晴の天候、五合目から山頂が見え「目標が見えた。行くぞ。」の声も七合目まで、以後口数が少なくなってきた。折しも富士登山マラソンの開催日、応援のため自衛隊同僚達が、勇壮な姿で登山しており、仲間を思う気持ちに何か共通感を抱いた。

特に、若き婦人自衛官が稜線を背に頂上を見上げている姿が印象的でした。

登山道の脇でゼーゼー言っている我が同僚に、大声で「消防団頑張れ」と叫んだら、稜線のかなたに消えてしまった。

九合目では、初挑戦した家族参加の子供三人が再度挑戦すると約束し、下山することになり秋山部長、清班長が子供達をサポートしながら六合目の山小屋で合流して登頂成功の祝宴の段取りを頼み別れた。

最後の難関、九合五勺の白い鳥居

から山頂にかけて、まるで出来たての石垣を崩さぬよう、ジクザグの道を三歩登って二歩下がる姿を見、無線でお互いに激を飛ばし励まし合いながら登った。

十二時十分、井出班長と娘さんが頂上についた。続いて大竹部長が地下足袋の効果により登頂。

大村副分団長、久保田団員、石川班長らはレモンをしゃぶりながら続き、それに若き秋山団員に負けずと私、そして、片平班長とお父さんが山口分団長と共に頂上に登ってきた。

消防分団旗が富士山に登ったのは、第二十五分団がはじめてだろう。浅間神社に参拝、消防団の安全を祈願し、記念写真を撮り車座になって昼食。労をねぎらい互いの顔に充実した笑いが続いた。

かたわらの分団長が青空に向かって、分団旗を何度となく振っていた。二時下山開始、途中下山した班も

## 原稿募集

消防団広報紙編集委員会  
では次回の原稿を募集しています  
○枚数 四百字詰原稿用紙一枚程度  
○問合せ (消防団広報紙編集委員会)  
又は、消防本部管理課  
○締切り 八月末日

## おもしろ雑学

卵の保存には正しい立て方がある

卵を冷蔵庫のケースに入れるとき、気をつけたのが、卵の立て方です。

卵の丸い方を上に、先のとがった方を下にするのが正しい立て方です。

というのは、丸い方には「気室」という空気の部屋があるので、下にすると空気が入りにくくなり、呼吸しにくくなるからです。構造上からも、丸い方を上にすると卵黄が中心に安定して、卵が長持ちします。また、卵は殻の細かい気孔を通じてにおいを吸収しやすいので注意が必要です。

六合目において、無線で登頂を祝福してくれ宴会の準備に入るとの事はやる気持ちを押さえながら、全員無事に三時間程で六合目に到着。富士市消防団第二十五分団の挑戦も終わった。

# 大淵に新しい消防車がやってきた

第十二分団 班長 加藤光政

「キオツケ！」「頭、中！」全員緊張の中、平成六年十一月二十日、まず、富士市長の挨拶で新消防ポンプ自動車披露式が開式された。

従来の消防車は使用年数が十六年に達し、広大な大淵地区を管轄するには老朽化が著しいため、去る十月七日、車両引渡し式において引退した。新型の消防車は、CD-1型、三千六百CC、百十五馬力、自動真空装置、放水能力毎分二千リットルで、無反動ノズルや自在接手などの特殊付属品を装備している。引渡し式から今日まで全団員で新型の消防車に親しみ、性能を理解し、緊急の出動にも対応出来る様、訓練を重ねて、代表団員による放水操作を行ない披露式を終えた。

これからは十二分団全団員で、大淵地区並びに近隣の地区の為に有意義に活用出来る様、日ごろの訓練を怠ることなく出動に備えたい。「備えあれば憂いなし」ということわざがあるが、備えただけで出動の要望がないのが一番良いが、実際にはそうもいかない。最近町中を車で走っていると、マナーの悪さが目立つ。

スーパリーの袋に一ぱいつまったポイ捨てゴミ、中央分離帯にせっかく植えられた樹木の上に無造作に投げ捨てられた空カン、不要となった家具、故障してつかえなくなった電気製品、ちよっと山中に入れば廃車になった車までが捨てられている。



これらのゴミは直接火災には関係ないが、同じような気持ちでポイ捨てされているタバコが一番心配である。歩いている時は投げ捨ててからクツで火を踏み消せば、ただのゴミとなるが、車中から捨てた時はそうはいかない。火のついたタバコは、舗装道路ならまだしも、道路両脇の枯れた芝や草木のある場所、増して強風のある日では大変な事である。その捨てたタバコの火から火災が発生する恐れがある事など全然考えないのだから。そのタバコの火で火災が発生したらりっぱな放火犯である。

このような無神経な人達に一度この消防車を利用して消火活動をしてもらい、苦勞を知ってもらいたいものである。

大淵にきた新しい消防車が宝の持ち腐れになっても、あまり活躍しなくてもすむような心構えを一人一人に持ってもらうべきものである。

# 消防団に入って良かったと思うこと

第二十六分団 団員 岡元研二

私は平成三年の二月に富士市消防団第二十六分団に入団しました。きっかけは、私の町内には消防団員がいなかった為でした。入団した当日から夜警を経験して、今まで自分達が寝静まっている中で、いつ発生するかわからない火災に備えて、夜の八時から翌朝の五時まで詰所で待機することの大変さを知ると同時に、入団するまで地域のために貢献されてきた先輩団員達に感謝しなくてはならないと感じました。

そして、三年の間に多くの経験を積んで来ました。秋に行われる訓練大会では、夏から大会当日まで、仕事の後の毎晩に近い訓練はとても辛かったです。大会で競い合った

後の充実感は言葉では表現できないものがありました。

又、分団での活動の他にラッパ隊にも入隊しました。入隊した当時は、思うように音を出せなかったのですが、練習を重ねていくに連れて曲がりなりに吹ける様になり、訓練大会や出初式などで分団からの代表としてラッパを吹け、自信がつけました。

第二十六分団に入ってから一番嬉しかったことは、昨年の訓練大会の訓練礼式の部で自分も選手として参加した第五方面隊が優勝したことでした。これから支部大会等いろいろな行事がありますが出来る限り頑張りたいと思います。

# 私にとっての消防団

第十九分団 団員 北垣俊男

火災が発生したときに、「消火活動に当たっているのは消防署員である。」の認識しなかった私が、本業を持ちながら地域社会のために活動する消防団の存在を知ったのは、ここへ定住した五年後であった。

区長さんから、年齢の順で入団の依頼を受けた時は、かなりの戸惑いもあったが断る理由は無く入団した。以来、仕事の都合で参加もままならぬ時期もあったが、できる限りの

範囲でやることを念頭に、分団長以下先輩諸氏の指導と、アフター5の活動としてはハードなものではあるが、火災予防活動、消火活動、訓練大会への参加等々を通じて「自分たちの地域は自分たちで守る」の気概が徐々に強まったと感じている。

消防団活動は、幅広い年齢層と多様な職業・考え方の人たちが時間の都合をつけて集まり、良い意味での上下関係に統制のとれた一つの社会

## 消防団の主要行事

- ▽市訓練大会 五月二十八日
- ▽庶務・機関員・新入団員 救急研修 六月中旬
- ▽富士支部査閲大会 七月二日 芝川町
- ▽静岡県消防団員査閲大会 八月四日 静岡市
- ▽特別健康診断 八月下旬
- ▽総合防災訓練 九月一日
- ▽ソフトボール大会 九月十七日
- ▽団本部行政視察研修 十月上旬
- ▽分団長行政視察研修 十月
- ▽静岡県消防大会 十一月 県西部
- ▽秋季火災予防運動 十一月九日～十五日
- ▽消防まつり 十一月十二日
- ▽火災期特別警備 十二月二十日
- ▽春季火災予防運動 平成八年二月二十日
- 平成八年三月一日～七日

組織として、地域に密着した活動を行っており、地域社会に愛着を感じている者なら誰でも参加資格があると思う。活動がきついか、大変さを言う前に、このように有益な活動を続けていることを地域の人に伝え、若い世代の人達にも参加を求め、今後とも消防団活動が一層盛り上がるよう期待を込めている。

# 十五年目の決意

第四分団 班長 丸山友則

消防団に入団してから十五年目を迎えました。

この間、最初の四年間は訓練礼式、そのあとの七年間はポンプ車操法と小型ポンプ操法の要員に指名され、訓練大会に出場させてもらいました。

ここ三年ほどは、若い団員が多くなったため出番がなくなり、手伝いをする側に回ることが多くなりました。

たが、訓練礼式では二回の優勝(当時は六ヶ方面隊が出場)を経験しました。操法では残念ながら優勝の経験がなくポンプ車操法での準優勝が最高でした。

練習の最初の頃は、優勝すると支部大会や県大会に、また正月の出初式にと一年間大変だから準優勝以下でいい、などと軽口をたたいていました。練習を重ねるとだんだん熱が入ってきて、やはり優勝を目指して一生懸命になってしまいました。今、思い出しても非常に苦しくつらい訓練でしたが、入団当初は火災現場へ行っても、先輩たちの後について邪魔にならないよう、うろろろしていた私が、規律訓練あるいは操法の訓練で先輩たちにしこかれたおかげで、やっと一人前の消防団員に近づいた気がしております。

近年、出場指定により火災出動件数が減少してきていることから、いざというときに備え、訓練というものが今まで以上に重要になってきていると思います。訓練は、消防技術の修得ばかりでなく、同じ一つの目

# 訓練大会について

第十一分団 団員 遠藤敏幸

私が第十一分団に入団してから早くも五年目を迎えます。初めは消防団の存在さえも知りませんでした。

昭和五十三年、富士市桑崎に引越して来た我が家族は、近所に知り合いもなくちょっと心細かった事を覚えております。

消防団に入団する切っ掛けもそんな思いがあったのでしょうか。友人の父親が第十一分団に入団しており、

# 消防団に入団して

第二十六分団 団員 田中克佳

私は消防団に入団し、心から本当によかったと思います。素晴らしい先輩や団員にめぐまれ、消防活動を教わっています。自分自身の消防についての知識や技術、地域の方とのふれあいがあるのも、すべて分団に入っているからなのです。

これも私を育ててくださった先輩のおかげです。心から感謝しています。

私は、仕事が不規則な三交替をやっているため、消防団活動のすべての日に参加はできませんが、自分が好きでやっている消防団なので、時間のゆるす限りすべてに参加しています。この事については、自分が退団するまで続けて、消防団活動に力を入れ、先輩や後輩に助けをもらうばかりでなく、自分も積極的に協力

是非私にもやってみないかと言う誘いでした。入団してからは色々な人達と顔見知りになり、様々な経験をしました。

私は以前、海上自衛隊に三年間勤務しており、それなりの事は出来るのではないかと高をくくっていました。それが、それは大きな間違いである事がわかりました。

入団して二年目の夏だったでしょう。分団長さんからいきなりポンプ車操法の選手をやってみないかと言われました。

私がどの様な事をするのかよくわからないまま、練習は始めてしまったのです。

選手は計五名で、他のメンバーの顔は見た事はあるのですが、会話をする機会などいまままでにあまりなかったように思います。

練習は仕事を終えて夜の七時頃からです。私は二番員を指名されたのですが、頭では理解しているつもりでも体が思う様に動いてくれず、何度も何回も同じ事を繰り返して、どれほど指導員さんに注意された事でしょう。

練習場のアスファルトは、昼間真夏の太陽をしっかりと浴びて夜になってもまだ熱く、出てくるのは汗ばかり、何年ぶりにこんなにも走ってこんなにも汗をかいたのでしょうか。

練習の回数も増えてくると他の選手と練習の事など色々な事を話せる様になりました。練習はきつかった

けれど、それ以上に何かを得たと自分は思いました。

大会当日の結果は第四位でしたが、選手の皆様や役員の方々に、そして第十一分団が一つになってもらった第四位でした。

ちょっと残り残念かもしれませんが、また大会に出場する機会があれば是非上位入賞をめざそうと思います。そして色々な方々に出会えて本当に良かったと思います。

## 編集後記

第五号も無事発行することができました。

多数の投稿ご協力ありがとうございました。

編集・紙面作りと委員一同大変苦慮致しましたが、これからも、より良い紙面作りのために皆様の原稿をお待ちしています。

最後に一年間頑張ってくれた編集委員を紹介いたします。

- 編集委員長 諸星光男
- 第二方面隊長 諸星光男
- 編集副委員長
- 〈第三方面隊〉
- 第十分団 分団長 鈴木敏郎
- 〈第一方面隊〉
- 第二十五分団 班長 青柳唯一
- 〈第二方面隊〉
- 第七分団 部長 林利昭
- 編集副委員長
- 〈第四方面隊〉
- 第十三分団 団員 小早川光
- 〈第五方面隊〉
- 第二十六分団 班長 滝澤広行
- 〈第六方面隊〉
- 第二十一分団 班長 芦沢直洋